

令和2年度 安中市総合教育会議 会議録

日時 令和3年1月26日(火) 午後1時30分から3時まで

場所 松井田庁舎2階 大会議室

出席者

【教育委員会】

委員 金井 裕之

委員 中島 卯

委員 湯本 見千子

委員 佐藤 和子

【市長部局】

安中市長 茂木 英子

【教育委員会事務局】

教育長 竹内 徹

教育部長 高橋 信秀

総務課長 戸塚 政明

学校教育課長 磯貝 博昭

学校教育課指導係 河原田 博英

生涯学習課長 萩原 陽子

文化財保護課長 齊藤 勝彦

スポーツ課長 石田 典久

※ 読みやすさ等のため、発言の内容や趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い回し等を整理しています。

◇ 教育部長

皆様、こんにちは。

定刻となりましたので、ただいまから、令和2年度 安中市総合教育会議を開会いたします。

皆様には、ご多用なところご参集をいただき、ありがとうございます。

本日司会を務めます教育部長の高橋です。よろしくお願いいたします。

皆様もご承知のとおり、総合教育会議は、教育に関する予算の編成、執行や条例提案など重要な権限を有している市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政の推進を図るために開催されるものです。

それでは開会にあたり、茂木市長からご挨拶をいただきます。

○ 市長

* 挨拶

◇ 教育部長

ありがとうございました。

続きまして、教育委員会を代表して、竹内教育長からご挨拶をお願いいたします。

◇ 教育長

* 挨拶

◇ 教育部長

ありがとうございました。

次に、本日ご出席の教育委員会委員の皆様から自己紹介をお願いいたします。

* 委員が、順番に自己紹介を行った。

◇ 教育部長

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

* 会議資料の確認を行った。

◇ 教育部長

ご確認いただきありがとうございます。

それでは、次第の4「協議事項」となります。本会議においては、茂木市長が議長となっておりますので、ここからの進行をお願いいたします。

○ 市長

それでは、次第の4「協議事項」に入ります。

GIGAスクール構想の推進について、まずは事務局からの説明を求めたいと思います。

◇ 学校教育課長

学校教育課長の磯貝です。最初にGIGAスクール構想に関する全体的な説明をいたします。本日は実際のタブレット端末の見本を3台用意しました。市長をはじめ委員の皆様にも実際に

端末を操作して体験をしていただきたいと思います。

それでは会議資料の1ページをご覧ください。資料の最初に「Society5.0時代を生きる子供たち」という表現が出てまいります。「Society5.0」というのは、日本が提唱する未来社会コンセプトであり、5年ごとに改定される科学技術基本計画の第5期に入っているということです。サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立するという新たな未来社会を指します。Society5.0時代を生きる子どもたちに相応しく、誰一人取り残すことなく、子どもたちがこれからの予測困難な社会を生きていくための力を身に付けるためにICTを活用して主体的で、対話的で、深い学びを実現していこうというものです。

そして、GIGAスクール構想では、目指すべき次世代の学校、教育現場として、

- 学びにおける時間、距離などの制約を取り払う
- 個別に最適で効果的な学びや支援
- プロジェクト型学習を通じて創造性を育む
- 校務の効率化
- 学びの知見の共有や生成

という5つの項目が掲げられています。

これを受けて、

- 児童生徒教員に1人1台端末の整備
 - 学校ネットワーク環境の全校整備
 - GIGAスクールサポーターの配置
 - 緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備
- などに取り組むこととしています。

資料次ページをご覧ください。

* 以後会議資料に沿って適宜補足を加えながら説明を行った後、

説明は以上です。

○ 市長

説明が終わりました。何かご質問やご意見がありましたらお願いします。

◆ 金井委員

整備されるタブレット端末は自治体間で違いがあるのですか。

◇ 学校教育課長

自治体間で違いがあります。

◆ 金井委員

タブレット端末の中に入る学習用のソフトも自治体間で違いがあるのですか。

◇ 学校教育課長

これも自治体間で違いがあります。

◆ 佐藤委員

現在はGIGAスクールサポーターを配置していて、来年度はICT支援員を配置していきたい

ということでした。両者には役割の違いがあると思いますが、来年度からの業務ではGIGAスクールサポーターという役割は無くても大丈夫なのですか。

◇ 学校教育課長

GIGAスクールサポーターは、GIGAスクール構想を導入する際に必要な役割を持っています。ICT支援員は、来年度から現場の先生がタブレット端末などのICT機器を実際に利活用していく際のサポートを行う役割を持っています。

これから現場の先生に向けた研修も重ねていく予定ではありますが、ICT支援員の役割を持った者が学校現場を巡回してサポートを行っていくことが必要だと思っています。

◆ 佐藤委員

ICT支援員には専門的な資格などが必要なのですか。

◇ 学校教育課指導係

GIGAスクール構想の取り組みが全国的に動いている中でICT支援員の需要は高まっています。ICT支援員の選定や確保にあたり、資格の要件などまで求めた場合、令和3年4月からの十分な人材確保が難しくなってしまう心配があります。ICTの分野や導入するソフト、アプリに適度な知識や経験のある者を幅広く確保していければ、と考えています。

◇ 学校教育課長

ICT支援員は、令和3年4月から4校に1人程度の割合で確保していきたいと考えています。

○ 市長

ICT支援員としての知識や経験、そして一定数の人材も確保をしていきたいということですね。

◆ 中島委員

タブレット端末の管理や取扱いはどのように考えていますか。

◇ 学校教育課長

タブレット端末は、各教室に充電保管庫を整備するので通常はそこに保管をします。宿題などの家庭学習をしてもらうためにタブレット端末を家庭に持ち帰らせることもあるかと思います。Wi-Fi環境が無い家庭にはルーターを貸し出して対応したいと考えています。

◆ 中島委員

タブレット端末を家庭に持ち帰って使う場合、例えば夜中でも学習をしたければ、端末を使うことができるということですか。

◇ 学校教育課指導係

使うことはできますが履歴が残るので、使い方に関する把握や指導はできます。

◆ 中島委員

タブレット端末を家庭で利用するという場面では、保護者の理解や協力も必要ですね。

◇ 学校教育課長

保護者に向けたパンフレットも作成していきたいと考えています。

◇ 教育長

「使い方のお約束」と題した内容のパンフレットを準備していく予定です。

◆ 佐藤委員

最初にきちんと使い方のルールを決めて、学校、保護者、子どもたちがそれを共有しているということが大切だと思います。

○ 市長

ご指摘のとおり大人も子どもも使い方のルールを共有して大事に使っていってもらおうという環境づくりは大切だと思います。

◆ 佐藤委員

ICT機器の利用が増えることで、例えば視力ですとか、子どもたちの健康面にも配慮していただきたいと思いますね。

◆ 湯本委員

子どもたちに1人1台端末が整備されるにあたり、特別支援学級にいる児童生徒への指導に関してはいかがですか。

◇ 学校教育課指導係

特別支援学級にいる児童生徒にも同じタブレット端末を用意します。一例ですが、視力の弱い子どもであれば、画面上で文字や数字を大きくして見たり、読んだりということが容易にできます。個々の特性に応じて使い方に広がりがあると感じています。学習ソフトに関してもいろいろな問題が選べるので、個々の実力に応じた選択や対応もできると考えています。この辺に関しては、この後皆様にも実際に体験していただきたいと思います。

◇ 教育長

例えば、現在は小学5年生だけれども、3年生のときの学習をもう一度振り返ってやってみたいというときは、今よりも手軽にそういったことができるようです。

ただし、タブレット端末による学習がすべてではないということは強調しておきたいと思います。もちろんこれまでの紙の教科書も使うし、外に出て行って体験的な学習をするということも引き続き重要なわけです。タブレット端末はいろいろある教育ツールの1つであり、バランスを取りながら、タブレット端末の効果的な利用の方法を工夫していくということを考えていかなければならないと思います。子どもたちの成長には体験型の学習といったことも非常に大切なわけですから、タブレット端末の学習に偏り過ぎても弊害があるのかな、と感じます。

◆ 中島委員

先生方にもICTに対して得意不得意があると思うので、個々の先生の力量や意欲が子どもたちに影響を与えてくるようであれば難しい課題であると思います。

◇ 学校教育課長

県の総合教育センターによる研修への参加、学校教育課で行う集合研修といったことは、これからも先生方に対して順次呼びかけや実施をしております。それ以外にも、各学校単位で

研修が受けられるようにも取り組んでまいりたいと思っています。

○ 市長

これまでの学習形態にGIGAスクール構想をどう馴染ませていくか、今はその過渡期にあるので、先生方にとっても大変ですね。

◆ 中島委員

コロナ禍を受けてGIGAスクール構想の必要性は理解できますが、これまでの学習形態が否定されているわけではないと思います。これまでの学習のやり方とICTを活用したこれからの学習のそれぞれ大事な部分を上手に融合させていってもらいたいと思います。

◇ 教育長

学校というのは、学び合ったり、教え合ったり、支え合ったり、助け合ったり、そういう「何々をし合う」といった人と人とのつながりが大事にされて学びが進んでいく組織だと思います。

○ 市長

それでは、この辺でタブレット端末を用いて実際にデモンストレーションをしてみたいと思います。

* タブレット端末の見本機器3台を用いて参加者が実際の操作などを体験した。

○ 市長

デモンストレーションでタブレット端末の実際を体験していただきました。委員の皆様からご意見やご感想などをいただきたいと思います。

◆ 金井委員

問題がクイズ形式になっていたりして、今の子どもたちはこういう形を好むと思うし、学習に意欲的になっていってくれるのではないかな、と思いました。端末の動きも早く、操作もわかりやすい感じがいたしました。この端末で将来デジタル教科書にも対応ができるのも良いですね。

◆ 湯本委員

勉強が苦手だったという子どももタブレット端末を使うことで勉強を好きになってくれる可能性を感じました。子どもがどういうことをやっているのかを理解して、親としてもしっかりしていなくては、と思いました。

◆ 中島委員

日々の授業の中で「なぜこうなるのか」といったことを考えながら学習として蓄えていくところは蓄えていきつつ、復習や家庭学習などでは効果的だし有効な手段だと思うので、ICTを上手に使っていけると良いと感じました。学習の過程なども大事にしていってもらいたいと思います。

◆ 佐藤委員

子どものうちから学校でICTが取り入れられていくことでICTの世界が広がっていくのかな、と思います。ただいま実際に体験してみて、子どもたちのタブレット端末による学習は、時間を決めて短時間で集中した方が効果は上がるのかな、という感じがしました。

○ 市長

子どもたちはタブレット端末の学習に集中していくと、どんどん入り込んで疲れも出てくると思いますから、タブレット端末の学習の後は、少し遠くを見たりして休む時間があったり、体育で体を動かしたりといった組み合わせも必要なのかな、と思いました。先生やクラスの仲間たちと和気あいあいコミュニケーションをしながら勉強をしていくということは、子どもたちの成長や人間形成などにとって大事なことだと思うので、無くならないでほしいと思います。

この辺で本日の協議事項を一区切りとさせていただきたいと思いますが、その他何かご発言などはございますか。

* 発言などは無かった。

○ 市長

無いようですので、本日の協議事項は終了とさせていただきます。
事務局に進行を返します。

◇ 教育部長

市長、委員の皆様、ありがとうございました。
続いて、次第の5「その他」に移ります。何かありますか。

* 総務課長が、会議録を作成して市のホームページで公開すること、本日の会議の内容や様子を報道機関に情報提供することを説明した。

◇ 教育部長

他にありますか。無いようですので次に進めます。
次第の6「市長の会議総括」です。茂木市長、お願いいたします。

○ 市長

会議の総括ということで一言申し上げます。

本日は、お忙しい中、総合教育会議にご出席をいただき、長時間にわたり熱心にご協議をいただき、大変ありがとうございました。

GIGAスクール構想は子どもたちにとっても先生たちにとっても新しいチャレンジであります。その様子を見守りながらしっかりと支えてまいりたいと思います。このように新しいことが加わると、懸念されることも出てくると思われますが、子どもたち一人ひとりの立場に立って、より良い方向に向かっていけるようみんなで知恵を出し合ってまいりたいと思います。

本日は大変ありがとうございました。

◇ 教育部長

茂木市長より会議の総括をしていただきました。ありがとうございました。
これをもちまして、令和2年度 安中市総合教育会議を閉会とさせていただきます。
皆様、大変お疲れ様でした。